

「革新的な学術分野」に、 24 大学 28 件を採択！

東京工大3件、北大・東大2件など、国立大の採択
件数8割超で、“国立大優位”強まる。

旺文社 教育情報センター

16年8月

文部科学省(以下、文科省)はこのほど、大学の卓越した研究教育拠点を選定して重点的に資金援助をする「21世紀COEプログラム」の16年度採択結果を発表した。

同プログラムは14年度から実施され、15年度で当初設定された10分野の拠点形成は終了しており、16年度は「革新的な学術分野」の開拓に限られた。186大学320件の申請に対し、24大学28件が選ばれ、採択件数の競争率は11.4倍の狭き門となった。また、国立大の採択が8割超を占め、これまで以上に“国立大優位”が強まった。

1 世界最高水準の大学づくり

<21世紀COEプログラム>

文科省は13年6月、活気に富み国際競争力のある国公私立大学づくりの一環として、次のような「大学(国立大学)の構造改革の方針」を打ち出した。

国立大学の再編・統合を大胆に進める。

国立大学に民間的発想の経営手法を導入する。

大学に第三者評価による競争原理を導入する。

このうち については、14年に2組4大学、15年に10組20大学が統合している。

は16年4月から、各国立大が法人格をもつ国立大学法人に移行した。 については14年度より、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進。その具体的な施策として、「世界的研究教育拠点形成のための重点的支援 - 21世紀COEプログラム(Center of Excellence : 卓越した拠点) - 」(以下、「21世紀COE」)が実施されている。

<21世紀COEの仕組み>

21世紀COEは、大学院博士課程の専攻等を対象に、全学的視野に立った戦略的な研究教育拠点形成計画について各大学の学長から申請を受け、第三者評価を行い、補助金

を交付する。採択の選定は、日本学術振興会を中心にした「21世紀COEプログラム委員会」の審査・評価等による。

審査は、次のような視点で行われる。

当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの

学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの

特色ある学問分野の開拓を通じて創造的、画期的な成果が期待できるもの

21世紀COEで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるもの

<16年度は「革新的な学術分野」に限定>

初年度の14年度は第1弾として生命科学、化学・材料科学、人文科学など5分野、第2弾の15年度は医学系、数学・物理学・地球科学、社会科学など5分野についてそれぞれ実施され、当初設定された分野は15年度で終了している。

第3弾に当たる16年度は、大学全体の継続的な構造改革を図る上での21世紀COEの重要性などに鑑み、「革新的な学術分野」の開拓を目指す拠点形成に限定して行った。

<新規採択に31億円交付>

21世紀COEの16年度予算は、総額365億円。その内、14年度と15年度の採択分(事業費の継続分)を差し引いた31億円が、16年度の新規採択に交付される。

1件当たり年間1千万円～5億円の範囲で、原則として5年間継続的に交付される。ただ、事業開始2年経過後に中間評価を、事業完了後に事後評価が行われる。中間評価の結果によっては、補助金の減額や打ち切りもあるという。

2 16年度の選定状況

<申請大学数・件数ともに大幅減>

まず、16年度の申請状況についてみてみよう。

申請大学数は15年度より39大学(17.3%)減の186大学で、特に私立大の27大学(23.5%)減が目立つ。申請件数も15年度より291件(47.6%)の大幅減で、320件。

国公私別に申請大学数と申請件数をみると、国立大=70大学156件(前年度81大学337件)、公立大=28大学34件(同29大学55件)、私立大=88大学130件(同115大学219件)で、大学数では私立大、申請件数では国立大のそれぞれ減少が目立つ(表1参照)。

申請大学・件数の大幅減は、前回までの多分野公募と異なり、対象が1分野に絞られたためとみられる。

なお、申請件数における国公私別の占有率を15年度と比べると、国立大の低下(15年度55.2% 16年度48.8%)に対し、公立大(同9.0% 10.6%)と私立大(同35.8% 40.6%)がともにアップしている(図1参照)。

< 採択件数の 8 割超が国立大 >

採択状況を国公立別(件数ベース)で見ると、国立大 23 件(82.1%)、公立大 1 件(3.6%)、私立大 4 件(14.3%)で、国立大が 8 割超を占め、“国立大優位”が一層強まった。国公立別の割合を申請段階と比べると、国立大 33.3 ポイントの大幅増に対し、公立大 - 7.0 ポイント、私立大 - 26.3 ポイントで、国立大の圧倒的な“強さ”を裏付けている(表 1、図 1 参照)。

< 競争率 11.4 倍、採択率 8.8%の“狭き門” >

公募対象が 1 分野で採択件数も絞られ、各大学は厳しい選定を受けることになった。

採択件数の平均競争率(申請件数÷採択件数)は 11.4 倍(前年度 4.6 倍)で、採択率(採択件数÷申請件数)の平均は 8.8% (同 21.8%) だった。採択率を国公立別にみると、国立大 14.7% (前年度 28.8%)、公立大 2.9% (同 9.1%)、私立大 3.1% (同 14.2%)で、国・公・私立大とも大きくダウンしている。

< 複数採択は、国立 3 大学のみ >

採択された 24 大学 28 件の大学名、研究テーマ等については、表 2(~)にまとめた。

採択件数の最も多かったのは東京工大の 3 件、次いで 2 年連続トップだった東大が北大と並んで 2 件だった。公立は 1 大学 1 件、私立は 4 大学 4 件で、2 年連続採択の慶大や早大などは、今回採択されていない。

3 3 年間の選定状況

< 採択総数は、11 分野に 93 大学 274 件 >

21 世紀 C O E は、14・15 年度と今回の分を合わせ、11 分野に 93 大学 274 件の拠点形成となった。3 年間の採択状況を国公立別にみてみよう。

まず、申請・採択状況では、総申請件数 1,395 件のうち、国立大 776 件(総申請件数に対する割合 55.6%)、公立大 127 件(同 9.1%)、私立大 492 件(同 35.3%)。総採択件数 274 件の内訳は、国立大 204 件(総採択件数に対する割合 74.5%)、公立大 10 件(同 3.6%)、私立大 60 件(同 21.9%)である(図 2 参照)。

これを採択率で見ると、国立大 26.3%、公立大 7.9%、私立大 12.2%となり、国立大はほぼ申請 4 件に 1 件、私立大は申請 8 件に 1 件、公立大は申請 13 件に 1 件がそれぞれ採択されたことになる。

次に採択された 93 大学の内訳をみると、国立 51 大学(採択大学数に対する割合 54.8%)、公立 7 大学(同 7.6%)、私立 35 大学(同 37.6%)である(表 3、図 3 参照)。

< 3 年間の採択件数、東大 28 件でトップ >

大学別に 3 年間の採択件数を見ると、東大 28 件、京大 23 件、阪大 15 件、名大 14 件、東北大 13 件、北大・東京工大・慶大 12 件、早大 9 件、九大 8 件など、旧 7 帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)が 113 件、41.2%を占めている。複数採択された私立大は前記の慶大・早大の他、立命館大(4 件)、日本大・同志社大・近畿大(いずれ

も 2 件)の計 6 校。公立大の複数採択は、大阪市立大(3 件)と都立大(2 件)の 2 校である(表 4 参照)。

4 革新的で、多彩なテーマ

< 昆虫科学、疲労克服、陶磁器など >

16 年度の公募分野は、過去 2 回の限定された分野と違い、“革新的”な学術分野ということから、採択されたテーマはこれまで以上に多彩で、大学の特色や地域性を打ち出した内容が目立つ。

京大の「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」では、「昆虫科学」を切り口に、食糧問題と環境問題の根本的な解決に向けた未来型食料環境学の創出を目指す。4 億年という長い進化過程で多様な形態と生態を発展させた昆虫から、その生きる知恵を解明し、食糧問題や環境問題の解決策を探ろうとする「総合昆虫科学」の研究教育拠点だ。大阪市大の「疲労克服研究教育拠点の形成」は公立大では唯一の採択で、現代のストレス社会では誰もが感じる「疲労」に着目したユニークなテーマである。病気の前兆かつ万病の元といわれる疲労について、分子レベルでの神経メカニズムの解明、疲労度の客観的評価法の確立、疲労を克服する食や薬の開発などを目指す。

九州産業大の「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」は、寛永 20 (1643) 年頃に創始され、日本の伝統工芸でもある柿右衛門様式の陶芸を体系的に研究し、陶芸分野の高度専門職業人の育成も目指す。古くから陶芸の盛んな九州北部の地域性と、西洋の陶磁器文化の発展に影響を与えた国際性など、柿右衛門窯の技法、意匠、美術史、文化史などの研究も注目される。

上記の他にも、地球史解析に挑む東京工大の「地球：人の住む惑星ができるまで」、生態系の研究に人工衛星による遠隔探査を組み合わせ、地球温暖化など環境問題に取り組む岐阜大の「衛星生態学創生拠点」、地域の特殊性と大学の特徴を生かし、古代日本の形成過程とその特質を多面的に解明しようとする奈良女大の「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」、漢文学の総合的な研究や漢文文献の調査・整理をする専門技能者の育成等を計画している二松學舎大の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」など、文・理系問わず多彩だ。

5 大学改革と進路選択

< “個性輝く”大学づくり >

平成 10 年 10 月の大学審議会(当時)答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について - 競争的環境の中で個性が輝く大学 - 」において、競争的環境の中で研究教育の質的向上を図るために、各大学の研究教育活動を客観的かつ公正に評価し、適切な資金配分を行うよう提言された。これを契機に、“評価に応じた資金配分”が本格化した。

大学に競争原理を導入し、研究教育の質を競い合い、互いに切磋琢磨していくことは

必要である。限られた資金を有効的に活用するためには、全体に薄く投資して底上げするより、評価の高い、期待される分野をもつ大学院(博士課程)に重点的に投資するほうが、より効果的であり効率的でもあるという。21世紀COEはこうした重点的資金援助を進める事業の一つでもある。

21世紀COEや科学研究費補助金(科研費)などは「研究」面への重点支援に偏りがちであるが、科学技術の進展には基盤となる基礎研究が重要で、それを支える教養教育も含めた「教育」の充実が不可避である。

文科省はこうした点を踏まえ、15年度より“教育のCOE版”ともいわれる「特色ある大学教育支援プログラム」(Good Practice; 以下、特色GP)を新規事業として立ち上げた。特色GPは短大を含む国公立大学の教育改善に役立つ取り組みを募り、特色ある優れたものを選定して事例集として取りまとめ、学生教育を充実させるのが狙いだ。特色GPに採択されると、予算も重点配分される。

少子化・受験生数減など厳しい環境の中、大学改革がアップテンポで進められている。そして、改革の一環として21世紀COEや特色GPなどに採択されるべく、学長のリーダーシップのもと、“個性輝く”大学づくりに挑んでいる大学も少なくない。

<大学選びの情報の一つに>

ところで、「なぜ、大学へ行くのか？」

受験生にとって大学進学のための目的意識を持つことは、大事なことである。進路選択の際、大学で何を学び、研究し、将来どんな分野で働きたい(研究したい)のか。それに対する自分の興味や能力、適性はどうかをしっかりと捉えておくことが大切である。つまり、進路選択は、興味・関心・意欲、能力、適性の3要素がそろったところで決めるべきだ。

進路志望に沿った大学はあるのか。将来取り組みたい分野の研究教育が、どんな大学で行われようとしているのか。受験生にとって、21世紀COEや特色GPは、大学(学部)選びの一つの情報としても活用したい。

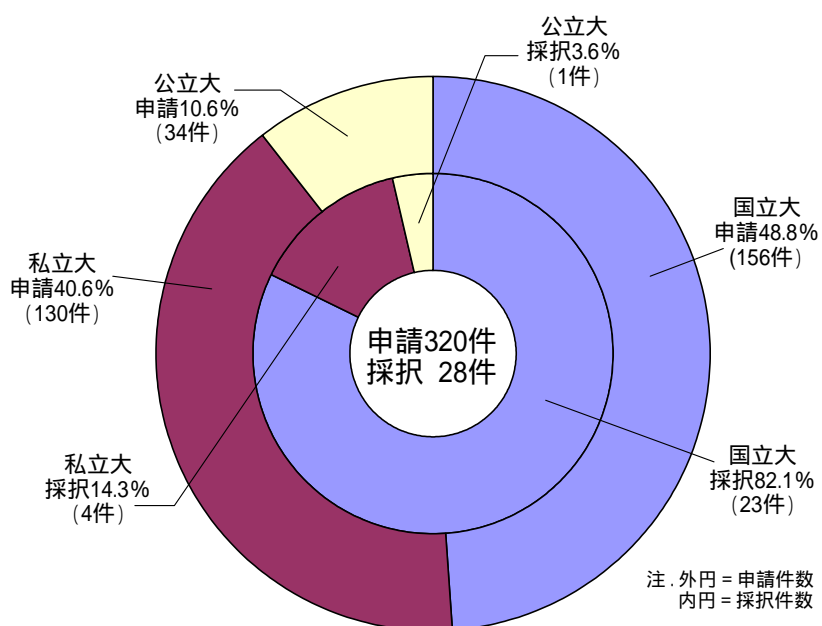
* 次葉に図・表を掲載

16年度21世紀 COE 申請・採択状況一覧 (表1)

革新的な学術分野		
国立大学	申請件数	156 (70校)
	採択件数	23 (19校)
公立大学	申請件数	34 (28校)
	採択件数	1 (1校)
私立大学	申請件数	130 (88校)
	採択件数	4 (4校)
合計	申請件数	320 (186校)
	採択件数	28 (24校)

注.()内は大学数。

16年度21世紀 COE 国公私別申請・採択の占有率 (図1)



大学名	拠点プログラム名	中核となる専攻等名
北大	トポロジー理工学の創成	工学研究科 量子物理工学専攻
当該分野であるポイント	帯を1回捻ってから両端を繋いだ場合、表面をたどってゆくといつの間にか裏側になって表と裏の区別のないメービウス帯になる。同様な性質をもつ結晶を世界で最初に発見した研究者が拠点リーダーとなり、メービウス帯で象徴される大局的な幾何学構造の数学トポロジーを切り口として、材料・物質・デバイスなどの広範な分野を横断的に理解し、発展させようとする「トポロジー理工学」という革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
北大	海洋生命統御による食糧生産の革新	水産科学研究科 生命資源科学専攻
当該分野であるポイント	海洋生物は陸上生物とは異なる特徴(生命現象の遺伝子支配が柔軟、性のゆらぎと多産性など)を有している。このことを生かして安全・安心な食糧生産につなげる点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
岩手大	熱 - 生命システム関連学拠点創成	連合農学研究科 生物資源科学専攻
当該分野であるポイント	気温など熱エネルギーと生命活動との関係について、寒冷環境下の生物に焦点を当て、工学的・生物情報学的視点から解明を目指す点で、食糧科学など革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
東北大	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	薬学研究科 医療薬科学専攻
当該分野であるポイント	物質科学としての創薬科学を基盤とした臨床医薬開発は、科学と実践技術の境界領域を開拓しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
群馬大	加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	医学系研究科 医科学専攻
当該分野であるポイント	世界最先端の加速器ビーム工学技術を用いての基礎医学・生物学研究は、工学と医学・生物学研究の融合による新しい細胞生物学研究分野を創設するものである。また、これらの成果を癌治療などの医療技術まで体系的に応用しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
千葉大	持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	社会文化科学研究科 都市研究専攻
当該分野であるポイント	持続可能な福祉社会、公共研究および市民社会との対話という三つの機軸を有機的に統合して拠点形成を進め、NPOやNGOとの連携モデルを構築しながら革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
東大	言語から読み解くゲノムと生命システム	新領域創成科学研究科 情報生命科学専攻
当該分野であるポイント	「言語から読み解く」という視点でゲノム言語、計算機言語、自然言語に注目しながら、情報科学と生命科学の融合による革新的な学術分野の開拓を目指しており、新分野開拓が期待できる拠点形成計画である。	
東大	次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻
当該分野であるポイント	ユビキタス情報ネットワーク基盤という技術的視点だけでなく、配信するコンテンツ及び情報技術の社会適用における問題点の解決という視点も含めて「社会基盤の形成」を目指す点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
東京工大	インスティテューショナル技術経営学	社会理工学研究科 経営工学専攻
当該分野であるポイント	技術経営の対象自体に視点を固定するのではなく、技術経営の実態の対象を取り巻く制度や環境条件の特性まで視野を拡大することにより、インスティテューション(イノベーションを生み出す土壌)を重視した日本的な技術経営学からスタートし、土壌の異なる国でも適応可能な一般性のある技術経営を目指す点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	

(表2 -)

大 学 名	拠点プログラム名	中核となる専攻等名
東京工大	エージェントベース社会システム科学の創出	総合理工学研究科 知能システム科学専攻
当該分野である ポイント	自律的なエージェントとしての個人や組織をボトムアップ的な視点で捉え、シミュレーション、理論及び実証という3つの切り口から、世界が直面する重要かつ困難な問題の解決手段を提供しようとするものであり、社会科学とシステム科学の文理融合を目指す点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
東京工大	地球：人の住む惑星ができるまで	理工学研究科 地球惑星科学専攻
当該分野である ポイント	生命出現と発展を中心とした地球形成の過程を、膨大な岩石資料の解析と再現実験によって研究し、地球惑星科学の枠を超え、生命・環境科学と学際融合して「人の住みうる惑星がいかにして誕生したか」を解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
一橋大	ヨーロッパの革新的研究拠点	法学研究科 公共関係法専攻
当該分野である ポイント	ヨーロッパ研究を、内部の歴史的展開・EUの拡大と、アメリカ・イスラムという外部との関係を「和解と衝突」という視点から統合的かつ領域横断的に行う点で、従来のヨーロッパ研究を超えた革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
金沢大	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成	医学系研究科 脳医学専攻
当該分野である ポイント	各種実験動物、ショウジョウコバチなどを用いた分子レベルでの脳研究と、非侵襲的測定による脳の脳研究を統合し、脳の発達と脳障害機構を解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
北陸先端科学 技術大学院大	検証進化可能電子社会	情報科学研究科 情報システム学専攻
当該分野である ポイント	電子社会システムの安心性の確保について、最新の情報科学に基づき全体的にモデル化・仕様化して論理検証を行うとともに、行政システムなどの社会科学にも関わる分野を取り扱う点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
岐阜大	衛星生態学創生拠点	流域圏科学研究センター
当該分野である ポイント	流域圏について、衛星リモートセンシング技術と生態プロセス観測を対比させた生態系モデルを構築し地球規模の問題を包括的に捉えようとする点で、マクロとミクロをつなぐ革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
静岡大	ナノビジョンサイエンスの拠点創成	電子科学研究科 電子応用工学専攻
当該分野である ポイント	光子・電子の集団・統計的利用という旧来の画像工学とは異なり、個々の光子・電子のナノ領域制御による新しい画像工学へ発展させようとするもので、デバイス製作からビジョンシステムまでをカバーする革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
名 大	計算科学フロンティア	工学研究科 計算理工学専攻
当該分野である ポイント	計算科学の基盤分野と先導的応用分野の連携のもとに、複雑、多次元、非線形性を含むより原理的な素過程からシミュレーションできる手法を構築して超多自由度系の現象を解明しようとする革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
京 大	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	農学研究科 応用生物学専攻
当該分野である ポイント	環境適応能力、情報伝達能力、スマートな形態と機能など、4億年という長い進化過程で多様な形態と生態を發展させた昆虫に学ぶという視点から、共生原理に基づく世界観を創出して食料問題と環境問題の解決に向けた今後の食料環境学を創出しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	

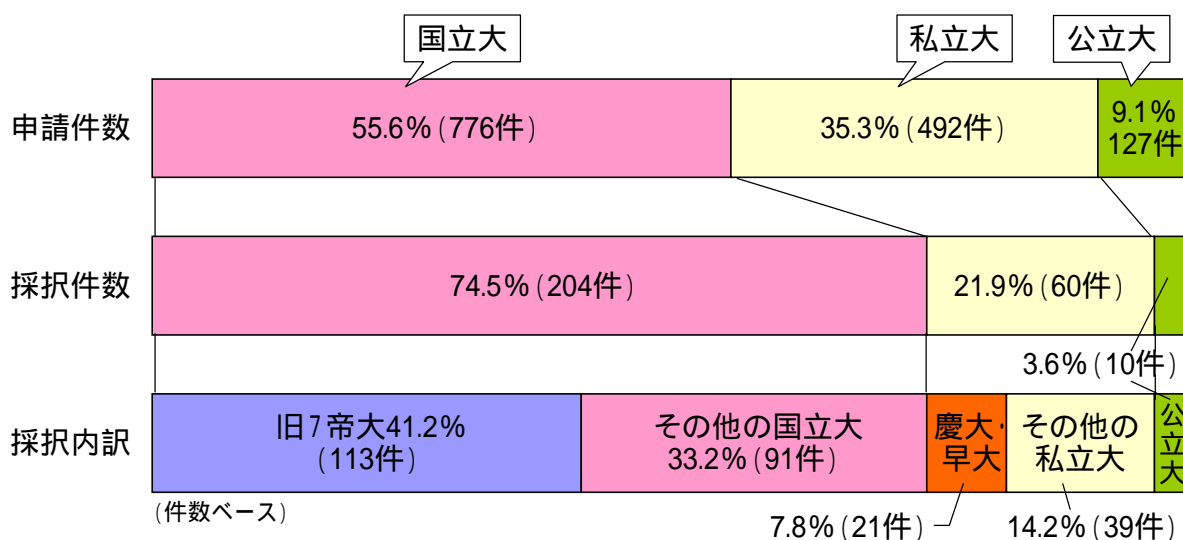
(表2 -)

大 学 名	拠点プログラム名	中核となる専攻等名
阪 大	細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	医学系研究科 未来医療開発専攻
当該分野である ポイント	幹細胞学、バイオマテリアル学、レーザー工学を統合した医工連携による新たな再生医療の構築を目指している点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
奈良女大	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	人間文化研究科 比較文化学専攻
当該分野である ポイント	考古学と歴史学だけでなく、国語学・国文学、地理学、生活文化史など諸学の統合により、奈良という地理的特徴を生かして古代日本の形成過程とその特質を解明し、古代学を体系化しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	
鳥取大	染色体工学技術開発の拠点形成	医学系研究科 機能再生医科学専攻
当該分野である ポイント	これまで確立してきた染色体を改変したり導入したりする独自の染色体工学技術とその利用により、染色体レベルでの遺伝子機能の解析、遺伝子再生医療、医薬品開発、ヒト人工染色体開発を目指しており、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
広島大	超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界	工学研究科 複雑システム工学専攻
当該分野である ポイント	世界最先端の超高速センシングと超高速作動工学技術をベースに、人間の能力の何十倍での認識と動作を可能にするという指標を設定し、建造物診断・食品生産・医療などの広範な分野に成果の応用を目指している点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
琉球大	サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析	理工学研究科 海洋環境学専攻
当該分野である ポイント	島部と周辺海域を不可分のセットとして扱い、生物多様性の進化過程と動態を遺伝子から生態系までのレベルで総合的に解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指すサンゴ礁島嶼系の生物多極性に関する拠点形成計画である。	
大阪市大	疲労克服研究教育拠点の形成	医学研究科 基礎医科学専攻
当該分野である ポイント	「疲労」という現象を医療・生命科学の対象として捉え、疲労の分子神経機構解明、疲労度の客観的評価を通して、その分子神経メカニズムを解明し、予防や治療などの制御技術の開発を目指している点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
* 二松學舎大	日本漢文学研究の世界的拠点の構築	文学研究科 中国学専攻
当該分野である ポイント	従来の中国学及び日本学では、日本で伝承されている豊かな漢字漢文文献資料の価値を認識してこなかったが、これを中心軸として本格的に研究しようとする点で、新しい学問分野の確立を目指す革新的な拠点形成計画である。	
* 京都薬大	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓	薬学研究科 薬学専攻
当該分野である ポイント	生命現象の基本である分子間相互作用を基盤として、伝承医薬、プロテオーム及び分子設計の三つのアプローチにより多角的にアルツハイマー、エイズなど難治性疾患の治療薬創製を目指し、統合して実現しようとする点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
* 高知工科大	社会マネジメント・システム	工学研究科 基盤工学専攻
当該分野である ポイント	低成長時代に社会が求める効率的な社会経営に必要な社会資本システムのマネジメント未開拓分野に照準を合わせ、既存技術の工学的知見と社会の効率化ニーズを統合した新しいマネジメント領域を学問的に体系化を目指す点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。	
* 九州産業大	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	芸術研究科 造形表現専攻
当該分野である ポイント	世界に誇る伝統的な文化財である柿右衛門様式の陶磁器について、技法・意匠・美術史・文化史などの観点から総合的に研究し、その全体像を解明しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。	

注・国立大 = 無印、公立大 = 印、私立大 = *印

11 分野 (3 年分) の国公立別申請・採択状況

(図 2)



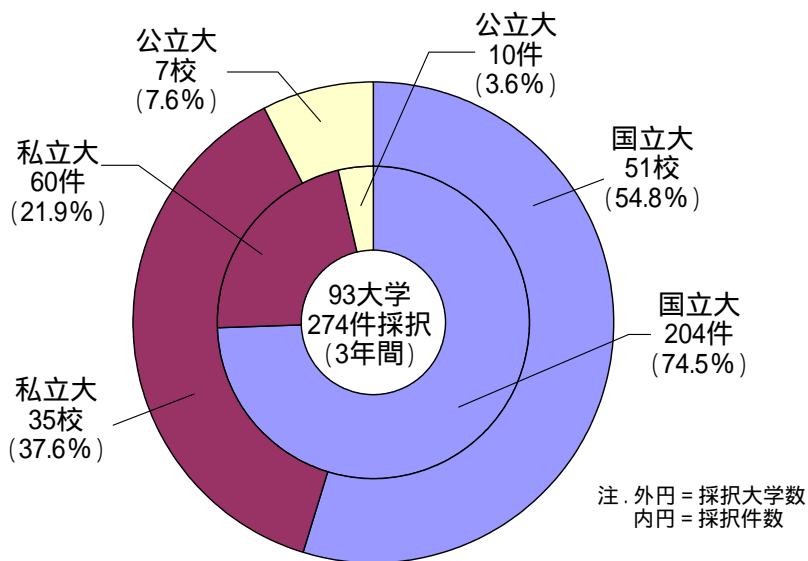
21 世紀 COE 年度別・分野別採択状況一覧

(表 3)

	11分野 総計	14年度							15年度					16年度	
		合計	生命	化学	情報	人文	学際	合計	医学	数物	工学	社会	学際	革新的な 学術分野	
国立大学	件数	204	84	21	18	15	13	17	97	24	21	16	17	19	23
	大学数	51	31	16	12	12	10	15	31	17	12	11	8	15	19
公立大学	件数	10	4	1	0	0	1	2	5	2	1	1	1	0	1
	大学数	7	4	1	0	0	1	2	4	2	1	1	1	0	1
私立大学	件数	60	25	6	3	5	6	5	31	9	2	6	8	6	4
	大学数	35	15	6	3	5	5	5	21	8	2	6	5	6	4
合計	件数	274	113	28	21	20	20	24	133	35	24	23	26	25	28
	大学数	93	50	23	15	17	16	22	56	27	15	18	14	21	24

注. 1 大学で複数分野への申請があるため、各分野の合計数と「合計」欄の数値は一致しない。

11 分野 (3 年分) の国公私別の採択大学数 & 件数 (図 3)



11 分野 (3 年分) の採択件数別大学一覧 (表 4)

採択件数	大 学 名
28	東大(2)
23	京大(1)
15	阪大(1)
14	名大(1)
13	東北大(1)
12	北大(2), 東京工大(3), *慶大
9	*早大
8	九大
7	神戸大
5	広島大(1)
4	筑波大, 千葉大(1), 一橋大(1), *立命館大
3	大阪市大(1)
2	群馬大(1), 東京医歯大, 東京外語大, 東京農工大, お茶の水女大, 横浜国大, 長岡技科大, 金沢大(1), 北陸先端科学技術大学院大(1), 岐阜大(1), 豊橋技科大, 奈良先端科学技術大学院大, 鳥取大(1), 岡山大, 徳島大, 長崎大, 熊本大, 都立大, *日本大, *同志社大, *近畿大
1	帯広畜産大, 岩手大(1), 秋田大, 山形大, 電通大, 政策研究大学院大, 新潟大, 富山医薬大, 福井医大, 山梨大, 信州大, 静岡大(1), 浜松医大, 名古屋工大, 奈良女大(1), 愛媛大, 九州芸工大, 九州工大, 佐賀大, 宮崎医大, 琉球大(1), 横浜市大, 静岡県大, 大阪府大, 姫路工大, 兵庫県看護大, *自治医大, *青山学院大, *北里大, *國學院大, *国際基督教大, *順天堂大, *上智大, *聖路加看護大, *玉川大, *中央大, *東海大, *東京女子医大, *東京電機大, *東京理大, *東洋大, *二松學舎大(1), *法政大, *神奈川大, *東京工芸大, *愛知大, *藤田保健衛生大, *日本福祉大, *名城大, *京都薬大(1), *関西医大, *関西学院大, *高知工科大(1), *九州産業大(1), *久留米大

注: ゴシックは16年度採択校、()内は16年度採択件数。国立大 = 無印、公立大 = 印、私立大 = *印。校名は申請時。